

取扱いの趣旨

骨膜下の膿瘍に対する抜歯前提の消炎拡大処置と切開については、別々の治療行為であることから、同月内において「P e r、A A」で抜歯予定の消炎拡大と口腔内消炎手術の算定は原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《平成24年2月27日》

15 抜歯前提の消炎拡大処置と口腔内消炎手術

○ 取扱い

原則として、同月内において「P e r、A A」病名で抜歯予定の消炎拡大と切開との併算定を認める。

○ 取扱いを定めた理由

歯科医学的観点から、骨膜下の膿瘍に対する、抜歯予定の消炎拡大と切開については、別々の治療行為であると考えられる。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

抜歯前提の消炎拡大と切開（口腔内消炎手術（歯肉膿瘍等）又は口腔内消炎手術（骨膜下膿瘍、口蓋膿瘍等））を算定しているレセプト1万件当たり、条件（同一歯のP e r、A Aに対して抜歯前提の消炎拡大と切開を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、抜歯前提の消炎拡大又は切開が査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

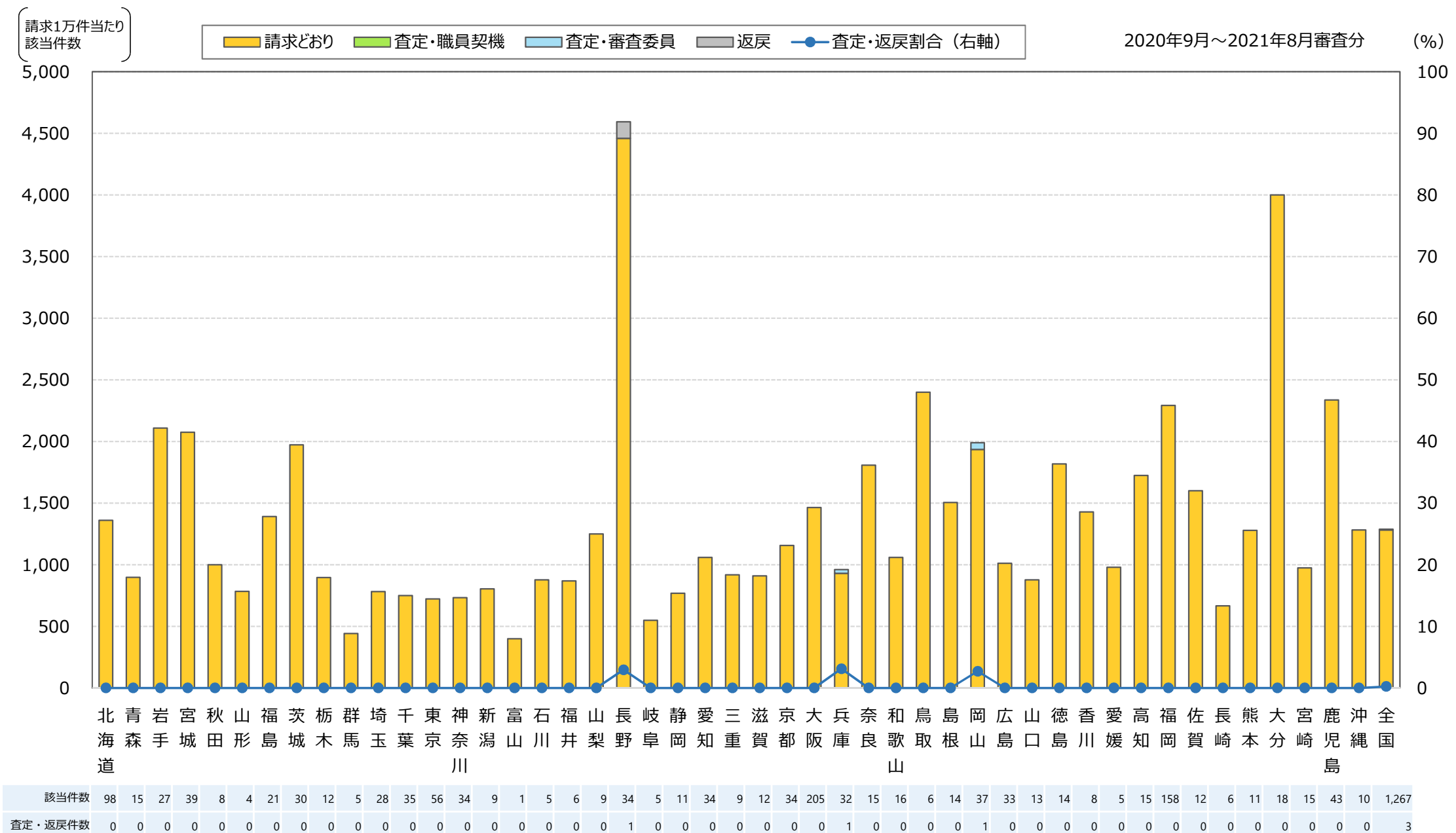
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0.24%
- 検証を必要とする支部 3支部

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	兵庫、長野、岡山	査定・返戻割合の高い順
査定・職員契機	—	
査定・審査委員	岡山、兵庫	対象1万件当たり査定件数の多い順
返戻	長野	対象1万件当たり返戻件数の多い順
該当件数（全国）	同一歯のP e r、A Aに対して抜歯前提の消炎拡大と切開を算定	1,267件
取扱いに基づく審査	請求どおり	1,264件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	3件

事例15 「P e r、A A」に対する同月の抜歯前提の消炎拡大処置と切開の取扱い

【認める事例】



【該当件数】 同一歯のP e r、A Aに対して抜歯前提の消炎拡大と切開を算定しているレセプト件数